

# 岡山プライマリ・ケア学会会報

第七号 平成二十五年五月

## ◆ご挨拶



会長 宮原伸二

日本は高齢多死社会という大変な時代を迎えました。五〇〇万以上の人が在宅療養を、そして一五〇万以上の人が亡くなる時代になります。一方認知症も現在の三〇〇万人が今後十年で二〇〇万人以上増加し、五〇〇万人になります。

その対策として国は、二〇一二年を在宅医療元年として位置づけて、新たな政策を打ち出しました。それが地域包括ケアシステムです。地域包括ケアシステムを推進するためには十分な経済保障や適切な政策提言、さらに、専門スタッフの計画的増員等が必要です。

地域レベルで考えると、プライマリ・ケア活動を深めることが重要です。具体的には、医師、保

健師、訪問看護師、介護士、介護支援専門員などの医療介護スタッフが地域において心を一つにしたサービスを展開することです。そこで地域住民の支えあいが強まれば、個々の医療や介護の知識が高まり、地域包括ケアシステムはさらに進むでしょう。

岡山プライマリ・ケア学会では、以上のような考えに基づき、活動の現場は「地域」、活動体は「医師を含めたチームケア」、仲間は「市民との協働」を合言葉にしたいものです。心のかよいあい、信頼し合える市民がプライマリ・ケアの理念でもって共同体を築くことができれば「地域ケアシステム」は本物になるでしょう。



## 地域連携シート「むすびの和」の推進をはかる

支える人たちの心を一つにして、本人の思いや願いを実現する地域連携シート「むすびの和」をより多くの方に知っていただくために、研修会や

シンポジウム、ミニ学習会を数多く開催します。「むすびの和」の基本は「いのちも大切ですが、限られた日々をできるだけQOLの高い生活をめざす」ということです。医療理念からいえば「いのちを救う医療」から「いのちを支える医療・いのちに寄りそう医療」に重点をおくものです。

平成二十五年度もこのような基本方針に基づき活動を推移します。ぜひ、多くの方が会員になり、主体的に協力を頂けることを切に願っています。

## 二十五年度の活動は実践活動を中心に行う

- 一 プライマリ・ケア講座  
東日本震災の教訓を学び、岡山の災害時の対策を意見交換します。
- 二 在宅で認知症を支える（その四）  
在宅で認知症を支えることを可能にしている事例のワークショップの開催
- 三 地域包括ケアシステムの推進をはかる  
地域ケア会議や在宅療養支援診療所の動き、さまざまなシートの活用などにより、在宅療養が円滑にできた事例を集め、ワークショップで議論してまとめ、小冊子を発行する予定です。

○「むすびの和」の利用を推進します。

○医療福祉塾の開催

県内四か所（各四回）で予定。福祉職、ケアマネ職、介護職の医療知識アップをはかります。

○会報の発行

内容を充実しながら七〜九号まで発行し、岡山プライマリ・ケア学会の活動の広報を行います。

○来年五月に岡山で開催される第五回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会への協力

このような活動の実行には、会員の皆様の知恵と力を必要とします。積極的な事業参加を期待しております。

## ◆岡山プライマリ・ケア学会 総会

### 並びに第二十回学術大会の報告

平成二十五年三月二十四日、岡山衛生会館五階中ホール並びに第一・二会議室に於いて開催され、午前十時から宮原伸二会長の挨拶に続き、総会が行われ、すべて原案通り承認されました。

また午前十時半からは第二十回学術大会が丹羽国泰岡山県医師会長の大会会長挨拶ではじま

り、記念講演（後記）、午後からは、プラクティカル・エデュケーション「骨盤底筋群の筋力アップ」という実践的講話が行われました。

その後は第一会場（十二題）、第二会場（十二題）に別れて研究発表が行われ、多職種がまじり活発な討論が続きました。参加者は約百人でした。

### ◆記念講演

地域包括ケアとソーシャル・キャピタル

健康福祉のまちづくりの現代的意義

島根大学副学長 塩飽邦憲

高齢社会では高齢者を、サービスの受動的な受け手のみではなく、能動的な社会活動の担い手ととらえる必要がある。WHOも提案しているように、老化は病気ではなく、発達段階の一部である。すなわち、老化により生活習慣病や虚弱になりやすくなるが、予防可能である。また、個別の病気やリスクへの着目から、総合的な健康に着目する必要があり、生きがい・社会参加の促進が何より重要である。

厚労省は「地域包括ケア」を主唱している。そ

の背景には、都市部を中心とした高齢者人口の増加、認知症高齢者の増加、高齢者一人暮らし・夫婦のみ世帯の増加、良質な介護従事者の確保の課題がある。高齢者が住み慣れた地域や家庭で安心して暮らし続けることができるように、医療・介護・予防・住まい・生活支援などのサービスを切れ目なく提供できる体制（平成二十四年介護保険法改正）として、地域包括ケアの圏域としての中学校区、中核機関としての地域包括支援センターと地域ケア会議の強化を意図している。しかし、「地域包括ケア」には、急性期医療を基本とする医療サービスと生活支援を基本とする福祉サービスとの適合性の悪さ、ケアを調整するのは誰か（調整モデルと一元供給モデル）、財政的に統合をどのように支えるか（保険者による治療と予防の一元化の失敗）、情報統合のキーとしてのマイナンバー制度とICTネットワークの問題がある。

さらに、厚労省「地域包括ケア」には「まちづくり」の視点が欠けている。社会的共通資本（宇沢弘文二〇〇〇）としてのコミュニティの重要性は高齢社会でますます高まっており、そのコアとしてソーシャル・キャピタル(Putnam, 1993)に注目が集まっている。我々の研究でも、ソーシャル・キャピタルは、ストレス緩和機能と関連し、生活習慣、血圧、抑うつ度などと関連していた。高齢者包括ケアには、コミュニティを基盤とし

(範囲規定のみならず、社会参加の担保)、統合型サービスで、個々の高齢者ニーズに対応でき、財源が中長期的に確保し、計画的な人材育成が確立し、質の管理が考慮されている必要がある。こうした高齢者ケアの充実のみならず、ソーシャル・キャピタルを強化して高齢者の参加しやすいコミュニティを構築し、真の包括ケアを実現することが重要である。

## ◆トピックス

〈第二十回学術大会・研究発表より〉

### ○糖尿病地域連携における

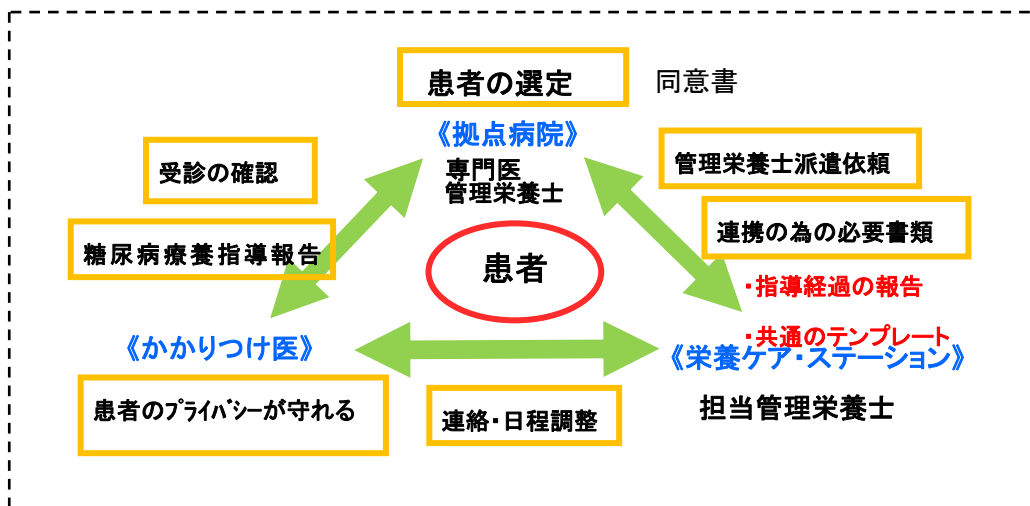
#### 栄養ケア・ステーションとの連携

岡山済生会総合病院

管理栄養士 森 美和子

糖尿病の患者数は生活習慣や社会環境の変化により増加しており、治療においてかかりつけ医と専門医療機関の切れ目のない医療連携体制の構築が必要です。また、糖尿病の治療では適切な血糖コントロールが重要であるため入院時から在宅に至る地域一体型のシームレスな栄養管理

を必要とします。岡山栄養ケア・ステーション(栄養CS)では診療所と契約し、研修を受けた管理栄養士を派遣し、かかりつけ医で継続した栄養指導を行っています。今回の『糖尿病等栄養管理連携支援システム』の流れは図のようになっていきます。拠点病院できちんと栄養指導を受け、退院後は月に一回、かかりつけ医にて栄養CS管理栄養士による栄養指導を実施し、六か月後には拠点病院に戻りこれまでの振り返りや総合評価を中心とした栄養指導を実施します。かかりつけ医での栄養指導の感想なども聞きながら、また新たな目標設定を行います。以降、かかりつけ医と拠点病院での栄養指導を繰り返し行います。栄養指導を受けた方は、生活習慣の改善、血糖コントロールの改善の効果がみられ、糖尿病治療に対するモチベーションを持続することができました。拠点病院やかかりつけ医のスタッフが連携し、患者情報の共有を図ることは患者の生活環境が大きく変化した時にも迅速に対応することができます。また、栄養管理連携パスを使うことによる支援は、栄養管理面においても共通の内容で切れ目のない療養支援の継続が可能となり、糖尿病治療効果が期待されると思われれます。



糖尿病等栄養管理連携支援システムの概要

# ○「岡山晴れ晴れDOTS手帳」の導入

岡山県保健福祉部健康推進課

土橋西紀・芦田英厚・倉本雅清

島村琢自・則安俊昭

結核の罹患は、戦後概ね一貫して減少傾向にあり、既に過去の病気と思われがちですが、依然として我が国における最大の慢性感染症です。岡山県でも、年間約三〇〇人が新たに結核を発病しており、このうち七十歳以上の高齢者が約六割を占めています。

結核治療の基本は、薬をきちんと飲むことですが、副作用の可能性がある薬を複数使用すること、服薬期間が最短でも六ヶ月と長期にわたることから、治療を成功させるには、周囲の方の支援が必要です。

県では、適切な結核医療の提供と結核治療の成功を目指して、平成二十五年四月、医療連携パスや服薬確認カレンダー機能等を持った県内統一の「岡山晴れ晴れDOTS手帳」を導入しました。

本手帳により、厚生労働大臣が定めている標準治療の普及とともに、保健所を拠点とし、地域で多職種（地域の医療機関（院内薬局含む）、訪問看護関係者、保険薬局、介護関係者等）の連携による患者への服薬支援（地域DOTS）を強化



岡山晴れ晴れDOTS手帳

し、服薬支援の質の向上を図ります。地域DOTS及び手帳の運用にあたっては、個々の症例に応じ、患者居住地の保健所から連絡、説明させていただきまますので、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。  
 ※DOTS (Directly Observed Treatment, Short-course) : 直接服薬確認療法

**あなた自身が記入**

**年 月の記録（服薬確認カレンダー①）**  
（薬の服用記録を毎日つけておきましょう。）

曜日	曜日	曜日	曜日	曜日	曜日	曜日
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31	今月の外来予定（過院日） 日（ ）、 日（ ）			

**自覚症状（体調や気になること）** 該当する症状があるときは記入

症状	いつから
① 手足の指先のしびれ ② 嗅覚の減少 ③ 体がだるい	
④ 食欲の不振（食欲がない） ⑤ 吐き気 ⑥ 胃腸障害	
⑦ 皮膚のかゆみや発赤 ⑧ 目がかすむ、視力低下 ⑨ 発熱	
⑩ けがをひいた	

メモ欄（上記以外に気になる症状などをメモしておき、受診のときに主治医に相談しましょう。）

**支援者全員記入**

**支援者の支援（確認）**  
実施または該当項目の□にチェックをしてください。

実施者	外来受診日		月	日	月	日	連絡簿
	検査	<input type="checkbox"/>	薬検検査（塗抹・培養）	(検査日)	月	日	
調剤	<input type="checkbox"/>	血液検査	(検査日)	月	日	調剤	調剤
	<input type="checkbox"/>	その他( )	(検査日)	月	日		
指導事項	<input type="checkbox"/>	胸部X線検査	(検査日)	月	日	指導事項	指導事項
	<input type="checkbox"/>	CT検査	(検査日)	月	日		
	<input type="checkbox"/>	服薬指導及び確認（副作用有無の確認を含む）					
	<input type="checkbox"/>	検査結果					
	<input type="checkbox"/>	休薬指示（休薬の薬名）					

実施者	来問・訪問日		月	日	月	日	連絡簿
	処方薬	<input type="checkbox"/>	INH	RFP	EB	PZA	
	<input type="checkbox"/>	その他( )	(処方薬名○で囲む)				
	<input type="checkbox"/>	処方薬	日分/	日分を添す			
	<input type="checkbox"/>	一包化					
	<input type="checkbox"/>	中断					
	<input type="checkbox"/>	飲み忘れ（飲み忘れの状況を連絡簿に記入）					

実施者	確認日（訪問日）		月	日	月	日	連絡簿
	確認方法	<input type="checkbox"/>	訪問・外来・来所				
	<input type="checkbox"/>	その他( )					
	<input type="checkbox"/>	中断					
	<input type="checkbox"/>	飲み忘れ					

実施者	調剤日（訪問日）		月	日	月	日	連絡簿
	調剤	<input type="checkbox"/>	訪問・来所・その他( )				
	<input type="checkbox"/>	来所調剤名					
	<input type="checkbox"/>	調剤日（訪問日）	月	日	月	日	
	<input type="checkbox"/>	調剤	訪問・来所・その他( )				
	<input type="checkbox"/>	来所調剤名					

## ◆関連団体の紹介

### ○岡山県社会福祉士の紹介

一般社団法人 岡山県社会福祉士会

事務局長 岡崎 幸友

「岡山県社会福祉士会」は、社会福祉に関する実践・研究・交流を通して、社会福祉士としての専門的知識や技術等の向上を図り、岡山県社会福祉の発展に寄与することを目的としている職能団体です。

本会は、社会福祉士国家資格を有する専門職能団体として、一九九二年八月に三十二名の有志により任意団体として産声をあげ、二〇〇九年四月に一般社団法人格を取得し、二〇一三年三月三十一日現在、五八〇名の会員で構成しています。

「社会福祉士」は一九八七年に制定された「社会福祉士及び介護福祉士法」に定められたソーシャルワークに関する専門職ですが、その歴史は三〇年弱と浅く、会員一同、社会の期待に応えるべく日々の研鑽と職域の拡大に取り組んでおり、本会はそのバックアップに努めています。

具体的には、ソーシャルワーク援助技術向上のための各種研修会の開催、成年後見人バンク

である「ぱあとなあ岡山」の運営、また岡山県における福祉問題の調査や、会員の実践をフィードバックするための研究誌の発行、さらには独立して社会福祉士事務所を開業する会員の支援などに取り組んでいます。

近年ではこれらの活動に加え、弁護士会、司法書士会等と協働した「高齢者・障がい者何でも相談会」への参画、福祉サービスマス第三者評価事業の実施、そして岡山市と「大規模災害時の福祉避難所における人的支援に関する協定」を締結するなど、対外的な活動を展開しています。特に、二〇一三年四月には岡山県障害者権利擁護センター業務を岡山県から受諾し、使用者による障害者虐待に関する通報又は届出の受付や、権利擁護指導者養成研修事業の開催、そして障害者虐待防止に関する啓発活動を担うなど、県民の生活問題の解決に向けた事業体へと活動の幅を拡大しています。

一方で、岡山県には登録された社会福祉士が約三、三〇〇名いますが、本会に入会しているのは六〇〇名に届かず、組織率にすると一八％前後であることに目を向ければ、県民のみならず、社会福祉士にとっても魅力ある団体へと成長することが本会の課題でもあります。

この課題に対して本会は、社会福祉士が有する能力を担保するなど、本会の存在価値を高める仕組み作りに取り組んでいます。すなわち、

資格取得後のキャリアパスである「認定社会福祉士制度」を通して、真に実践力を有した社会福祉士を養成する役割を担うと同時に、ソーシャルワーク実践が、福祉的問題を解決するのに有用であることを広く社会に発信することで、職能団体としての魅力を増していきたいと考えています。

法人設立後四年目とまだまだ若い団体ですが、県民福祉の向上は、社会福祉士の実践力にかかっていると自負のもと、社会からの期待に応えることが出来るようこれからも鋭意精進して参りますので、どうぞよろしくお願いたします。



# ◆研修会等の予定

## 平成二十五年度 岡山プライマリ・ケア学会 「プライマリ・ケア講座」

日時 平成二十五年七月二十日(土)  
午後二時～三時三十分  
場所 岡山衛生会館 五階 中ホール

### 「寄り添う医療」

～東日本大震災の体験を通して～

東北大学大学院  
丸森町国民健康保険丸森病院内科医長  
菅野 武 先生

公立志津川病院に勤務されておりましたが、海岸近くにあった病院は、四階まで浸水し、多くの患者さんがいのちを失いました。菅野氏は、患者救済に奮闘しその活躍ぶりが評価され、米国タイム誌の二〇一一年度の「世界で最も影響力のある一〇〇人」に選ばれました。その奮闘ぶりをお聞きし、災害に対する認識をより深めたいと思います。尚、事前申込者のうち、先着七十名に講師の著書「寄り添い支える」を無料で差し上げます。

### 岡山プライマリ・ケア学会「プライマリ・ケア講座」 寄り添う医療 ～東日本大震災の体験を通して～

日時：平成25年7月20日(土)  
午後2時～3時30分  
場所：岡山衛生会館 5階 中ホール

TIME誌「世界で最も影響力のある100人」に選ばれた菅野武氏の講演

公立志津川病院に勤務されておりましたが、海岸近くにあった病院は、4階まで浸水し、多くの患者さんが命を失いました。菅野氏は、患者救済に奮闘し、その活躍ぶりが評価され米国タイム誌の「2011年度の世界的な影響力のある100人」に選ばれました。その奮闘ぶりをお聞きし、認識をより深めたいと思います。

菅野武先生：34歳：内科医。仙台生まれ。東北大学大学院医学系研究科消化器病医学博士課程。2005年自治医大卒。2009年より公立志津川病院内科に勤務。その後、東北大学院に連年予定であったが、4月中旬まで再三延期の医療経済学部で、診療体制復興のための調査業務に従事した。

～本文より抜粋～  
震災はさらに水位を上げ病院の4階天井近くまで来た。津波が足元わずか数センチまで押し寄せた。私は自分の死を中までには思わなかった。身元は思わなかった。……普段外している結婚指輪を財布から取り出し、左手にはめた。もし自分が死んだら指輪が私をみつけれられるように、と。

参加は裏面よりお申し込み下さい

主催：岡山プライマリ・ケア学会・岡山県医師会

## ◆入会のご案内

★申込書は、HPからダウンロード出来ます。

<http://www.p-care-okayama.com/>

### 岡山プライマリ・ケア学会入会申込書

岡山プライマリ・ケア学会  
会長 菅野 武

日本プライマリ・ケア学会が平成21年に日本プライマリ・ケア連合学会として再出発したのを機に、日本プライマリ・ケア学会岡山支部は、岡山プライマリ・ケア学会として独立しました。基本的には、今までの19年の歴史を踏まえ、岡山の特色ともいえる多職種連携のもとに推進いたします。これらの活動には、岡山県医師会から多大のご協力を得ています。

◎具体的な活動

1. 学術大会（平成24年度は第20回記念大会を実施）
2. 多職種多団体との連携
3. 認知症を地域で支える方策と実践活動
4. 在宅療養に有効な連携ハシートの普及【連携シートむすびの旬】
5. 医療福祉誌

詳細は、ホームページをご参照ください。「岡山プライマリ・ケア学会」で検索。




年会費：医師・歯科医師・薬剤師：5,000円  
その他：2,000円

【新規会員申込書】

申込者氏名：	職種：
連絡先：(〒) 住所：	
電話番号：	FAX：

申込先：岡山プライマリ・ケア学会 FAX：086-271-1572

◎どなたでも入会出来ます。 ◎入会は随時受付けます。

## 編集後記

先日、介護保険から軽度者を切り離す案が社会保障制度改革国民会議で議題に上がったニュースを目にしました。要支援の医療・介護サービスがどうなっていくのか気になる場所です。

まだ「介護予防・日常生活支援総合事業」を行っている市町村は県内でも数カ所ですが、医療と介護の連携を進める観点からも、これからの国民会議の展開に目が離せません。

編集委員

- 佐藤 涼介
- 菅崎 仁美
- 丸田 康代
- 河原 喜美恵



## 岡山プライマリ・ケア学会 事務局

〒703-8522  
岡山市中区古京町一―一十  
(岡山県医師会内)

編集・発行

TEL：086-272-3225  
FAX：086-271-1572

